平成２８年度第３回　伊那市総合教育会議会議録

◎招集年月日　　平成２８年１１月２４日（木）
◎開 催 日 時　　平成２８年１２月１２日（月）　午後３時３０分～４時５８分
◎場　　所　　伊那市役所　庁議室
◎出　席　者　　白鳥市長、松田教育委員長、宮脇教育委員長職務代理者、田畑教育委員、原田教育委員
◎欠　席　者　　なし
◎出席関係者　　薄田校長会長、市川校長会副会長
◎出 席 職 員　　北原教育長、大住教育次長、北野学校教育課長、小松生涯学習課長、捧文化振興課長、宮下スポーツ振興課長、唐木指導主事、井口教育コーディネーター、山崎教育総務係長

１　開　　会

大住教育次長
　皆さん、こんにちは。時間となりましたので、ただ今から第３回伊那市総合教育会議を始めてまいりたいと思います。初めに白鳥市長からごあいさつをお願いいたします。

２　市長あいさつ

白鳥市長
　ご承知のように伊那市の中におきまして、教員の不祥事ということでつい先日発生してしまいました。大変残念なことでありますけれど、今日はそうした内容についても皆さんからご意見をいただきながら、議論を深めたいと思います。伊那市では「暮らしのなかの食」だとか、総合学習だとか最近ではＩｏＴ、遠隔教育の推進であるとか、そうしたことの実践、また、学校の木質化、今日も議題にありますけれど、学校の木質化の取り組みとか、いろんな先進的な取り組みをやってきておりますけれど、教職員のたった一人の、まあ、前回もあったわけですけれど、そうしたことによって教育への信頼が本当に失われてしまったということで残念で仕方がありません。是非こうしたことが２度と起らないようしっかり対応、対策を取っていきながら、伊那市の教育をもう一度ゼロから組み上げて、また、実践していくこともしっかりと子どもたちに伝えていきたいと思いますので、よろしくお願い申し上げまして、冒頭にあたりましてのあいさつとします。

大住教育次長
　ありがとうございました。続きまして、松田教育委員長、お願いいたします。

３　教育委員長あいさつ

松田教育委員長
　２学期は１年で最も長い学期でありまして、しかもその中に小学校の多くが運動会、あるいは音楽会、そして中学では文化祭、そうした行事もありまして充実した学期で

あったと思います。私は、長谷小中学校の音楽会を鑑賞させていただきましたが、小学校の音楽会は、圧巻で鑑賞されていた保護者の中には、感涙されている人もいました。また、長谷中学校の音楽会では１０人に満たない人数で見事な合唱を行いまして、保護者の中からは感嘆の声が漏れておりました。そうした保護者の皆さんの姿から、子どもたちの学習の充実が親御さんたちを感化させて、子どもたちが親学をするということを改めて思いました。１１月８日に行われました「暮らしのなかの食」の実践発表会は大変充実しておりまして、私はいつも茅野まで先生をお迎えしたりお送りしたりしているんですけれど、その車中での話が至福の時間なんですが、先生が何回も「昨年と数段違う。」というふうに高く評価をしてくださっておりました。発表の中にもありましたけれど、大根、ニンジンなど数百本も収穫するなど、本格的な農業をしているに等しい実践をしている学校も見られるなど、活動が大変深まってきていると思います。できれば次回の総合教育会議でも、この「暮らしなかの食」について検証し、更に次年度につなげていきたいというふうに思っております。今、市長さんからもお話がありましたけれど、協議事項に教職員の研究・修養の項目を入れていただきました。教職員の非違行為の根絶に向けて、研究・修養がどうあればいいのか、教育委員会のひとつの考えを基にして、ご検討いただければありがたいと思っております。よろしくお願いいたします。

大住教育次長

続いて協議事項に入りますが、ただ今話がありました教職員の研究・修養につきまして、関係者の出席ということで、伊那市小中学校校長会会長の薄田春富中校長先生、副会長の市川西春近北小校長先生に出席をいただいております。一緒に協議に加わっていただきたいと思います。よろしくお願いいたします。それでは、後の進行を市長の方でお願いいたします。

４　協議事項

（１）教職員の研究・修養の取り組みについて

白鳥市長

それでは、教職員の研究・修養の項目につきまして、議題とさせていただきます。このことにつきましては、松田教育委員長の方からまず話をお願いしたいと思います。

松田教育委員長

それではお手元にお配りしました資料に基づいてお話をさせていただきますので、それを基にご意見をいただければありがたいと思います。よろしくお願いします。

長野県の教育委員会は、この１０月２６日付で、わいせつな行為根絶のための特別対策の検討結果を示しております。非違行為の背景、要因を次にあげる４点としております。このことにつきましては、今日お配りしました資料のＡというのがありますけれど、１１月の県会でも西沢議員から質問が出まして、それに原山教育長さんが回答されている記事が掲載されていますけれど、そこにもこの４項目について掲載されていますので、赤く線を引っ張ってきましたけれど、ご覧いただければというふうに思います。まず、ひとつは非違行為を起こす先生方の状況を追ってみますと、「自己を認識することや、他者を理解する力が欠如」していること、そういうふうに書かれていますけれど、自己を認識する、あるいは、他者を理解するということにつきまし

て、示唆されている教えがありますので紹介させていただきます。
　まず、ひとつは、唐木順三先生の「朴の木」の「古典とのつながり」の中に書かれているんですけど、「この本こそ私一人のために書き残されたのだ、という読書の体験をもたないひとは気の毒な、不幸な人だと思っている。・・・たった一冊の本でも、その書が私一人をめあてにして、私のために、私を目覚まし、私の考えをのばし、私の生き方をたしかめるために書かれたのだ、というそういう体験をもったひとは幸福な、仕合せなひとだと思う。」というふうに書かれております。
　ふたつめには、三十歳ごろから二十年余り、信州教育を熱愛されまして、それこそ命がけで信州の教師を教え導きまして、上田の地で急逝されました京都大学教授の木村素衛先生は、信州の教師にこのように問うています。
『信州の先生方は、どうしてそこまで哲学を学ぶのですか。』
それに対して信州の教師は、こう答えています。
『教師として下卑ない為です。』この言葉に木村先生はさらに感化されて、何度も何度も信州に通っていただいております。
　三つ目は、染織史家の吉岡幸雄さんですが、この方は「この仕事の古典を観る。歴史を振りかえる。これがこわさ（畏）を知る一番の学び」と教えていますが、十二単のあの色は全て自然の中から取り出してきているということから、古典を拓いた人はすごいというようなことを書かれているんですが、そこから引用させていただきました。
　もうひとつ、資料のＢを見ていただきたいんですが、私が校長を務めさせていただいている折に、木曽の学校、それから赤穂中学で、毛涯章平先生の「ふきのとうの餞別」という、こういう本があるんですけど、これを職員の読み合わせに使いました。先生の略歴はそこに書いてあるとおりですけれども、この「ふきのとうの餞別」の一番最初の中身に「畏れ」ということを書いているんです。それでちょっと読ませていただきますと、
『この子の言うことは、
　私が、どうしても為し得なかったことである。
　あの子の告白は、
　かつて私がおかした過ちである。
　彼の主張も、彼女の訴えも、
　それは、わが思いであり、わが哀しみである。
　過ちをおかした子が、しょう然と私の前に立ったとき、
　傷心を抱いて去って行く子の、後姿を眺めるとき、
　私は、そこに少年時代の、私自身の姿を見る。
　思えば、学校じゅうで、いちばん過ち多い人間は、私自身なのだ。』
　こういう内容です。これについて、先生方の想いを語っていただいたことを思い出します。
　また、もうひとつ紹介させていただきますが、「この組、心配なし」という中身ですけれど、
『清掃時図書館に行く。
　掃くもの、拭くものに混じりて、一人、体を窮屈に折りまげ、膝をつき、力をこめて床磨きつつある生徒、目にとまる。
　近寄りて賞さんとすれば、汗ばみたる顔をあぐ。
　手拭いの鉢巻、いかにも無格好なる担任なり。驚きかつ嬉しく、深く黙礼して去る。』

こういう内容ですが、この中身の読み合わせをした後、掃除ががくっと変わりました。ちょっと紹介させていただきましたが、学校長のリーダーシップの下、先達の教えを紐解き、内層を磨く修養に努める。豊かな教材が子どもと教師をつなぐと同様「読み合わせ」のテキストが、校長が示す先達の教えが、校長と職員をつなぐ。それから、職員の琴線に触れる、校長だより、教頭だよりの発行。そういうふうに自己を認識することや他者を理解する力の欠如を克服する道について考えてみました。

白鳥市長
今、資料のＡ、Ｂ、それから、研究・修養の取り組みについて、話をしていただきました。まず、資料のＡについて、原山教育長の考え、また、答弁、このことについて、特に規範意識の欠如や自己を認識すること、他者を理解する力が欠けているという話がありましたので、このことについて、皆さんからご意見をいただきたいと思います。

北原教育長
冒頭に規範意識の欠如があるんですけれども、今、毛涯先生のお話もしていただきましたけれど、毛涯先生のこの「ふきのとうの餞別」の中に、『蓬麻中に生ずれば扶けずして自ずから直し』というものがあるんですが、このことは私も良く職員と話をしました。子どもたちにも校長講話で話をしたんですけれど、非常にわかりやすいと言うか、蓬（よもぎ）は曲がり易いけれど、そういう中にあっても麻の中にあれば、まっすぐ伸びる、そういう集団、学級を作っていくんだ、学校を作っていくんだという、まずは、規範意識がとても大事だと思います。また、この高遠から会津へ行った保科正之公の後なんですけれど、日新館の子どもたちへの教え什の掟に「ならぬことはならぬものです」という言葉があるんですが、私どもよく話をする中で、最終的にいいとか悪いとかいうことは、考えたり話し合ったりすることじゃないというところまで、みんなで何回かやることが大事だなあということを実感してきているところです。

白鳥市長
ほかにはどうでしょうか。

白鳥市長
なかなか難しい部分になるんですけれど、規範意識の欠如、特に、自己を理解すること、他人を理解する力がないって、言い換えれば自分勝手っていうことですね。

松田教育委員長
実は、昨日、第１３回のニシザワ読書感想文コンクールの表彰式がありまして、小学生、それから中学生の感想文を読ませてもらったんですが、すごいなというふうに思いました。というのは、小学生、中学生が、作品に出てくる登場人物に自分を重ねて、そして、自分の在りようっていうんですかね、そういうものを導き出しているんですけど、読書する、本を読むっていうことは、鏡は自分の顔や体を写し出しますが、心を写し出すことはありませんが、読書をすると、そのことによって心が写し出されると、そういう体験、学びを、子どもたちの前に立つ教師は怠ってはならないというふうに、子どもたちの感想文を読ませていただきながら改めて思いました。

白鳥市長
　ほか、どうでしょうか。

白鳥市長
　じゃあ、次のＢのところに行きたいと思います。目星でも構わないんで、いろんな意見をいただきたいと思うんですけれど、「ふきのとうの餞別」という中の「この組、心配なし」という文章ですが、心配なしというタイトルの中では、先生の率先垂範と言いますか、これ見よがしに何かするということではないですけれども、自らも取り組みをしてそれが生徒達に段々染み渡っていくのかなあという文章なんですが、このことついて考えとかご意見をいただきたいと思います。いかがでしょうか。

宮脇教育委員長職務代理者
　県の方でこういう分析をしていただいて、当然専門家の意見を踏まえてということで、専門家の皆さんの聞き取り調査からこういう傾向があるということで出していただいているんですけれど、一般の人は当然持っている意識であって、なかなかそれが達成できないでいる人がいるっていうことが問題になるところなので、そういう方たちを含めて、全体でやっていかないと、その人たちだけを対象にやっても厳しいと思うので、みんなでこういうことをやりながら心を開いてもらうということをやらないといけないと思うので、今、委員長さんの方で読み合わせ等をやりましょうということで､いろいろなことが書かれていると思うんですけど､こういうことをやるなかで、今まで心を開けなかった人たちも意見を言うようになれば、そういう人たちも気が付いてくれるかなあと、学校で実際に何ができるかを考えた時に、読み合わせといった方法を先生方今までもやってきて有効だと思いますので、大事なことだと思います。

白鳥市長
　市役所でもそうなんですけど、毎週木曜日は「５Ｓ」という日を設けて、仕事が終わると皆さん、時間を区切って普段できないような所の掃除などをやっているんですね。そういう取り組みをきちんとできる人と、中には終業のチャイムが鳴るとすぐに帰り支度をして帰る人もいるんですよ。これは、何回言ってもできない人というようなことで、そういうふうに見ていくと、修養の時間とか読み合わせとかやっているにしても、そこに参加しない人っていらっしゃるんですか。

松田教育委員長
　いや､学校でそういう時間を取れば､みんなそこにいるところでやるわけですから、赤穂中学でやった時には、中学はみんな忙しいので、職員会の前１５分間読み合わせの時間をくださいと、で、５分間は若い先生に音読してもらう、残りの１０分間で感想を自由に言ってもらう､そういうふうにしてやったんですが､わずか１５分ですが、年間を通してやりますので、かなりの量が読めた。

白鳥市長
　そこに参加して、同じ方向を向いて、皆さんで目的を理解しながらやっているという、ただ、聞けばいいということになると、ある意味心に響いていかないと思うんですね。そこら辺がどんなものなのかということと、最近の大学生のご乱行というのも

目に余るものがありますよね。東京大学だとか慶応だとか千葉大だとか、ああいうのっていうのは何か似ているところないのかな、変なエリート意識と自分勝手、自分たちがやることは正しいというような感じのことをしちゃったり、群れると自分一人ではできないようなことができてまずい方向に行っちゃたりとかね。

北原教育長
　今、思い返してみて市長の言うことがそうだなあと思うんですけれど、確かに読み合わせをするとか、何かの活動をするとかいう時にみんながいるんですけれども、例えば感想をと言えば感想が出てくるんですけれども、そこで終わっていた。大部分はそこで滲みていくんですけれども、ただ、時間を経過していた人がいたんじゃないか、そういう人たちのところまで滲みていくと言いますか、後を見ていくことは十分ではなかったかなあと私は反省をしているんですけれども、そこへいくとこの掃除みたいなことは、心はそこにあるかないか分かりませんけれども、やっていることがよく分かる。でもいつでも時間いっぱいやっている、ひとつ行的なものに掃除がなっているんじゃないか、ただきれいにするんじゃなくて、最初はただやっているんだけれども、やっているうちに、汚れが見えてきたりとか、これじゃあ気が済まない、そういうところにつながっているという意味ではこの掃除というのは、学校において大きな意味を持っていると思うんですね。私も荒れた学級というのをいくつか見てきたんですが、そうした学級に共通しているのは、子どもが帰った後に、ごみが落ちていたりとか、机が散乱していたり、それで、次の朝、子どもが来た時にどういう気持ちでここに入ってくるのかなあと。そういう話をする中で立て直した若い先生がいるんですけれど、会議に行っても何しても、教室に戻って生徒が明日来た時に気持ち良く入れるように、そして、黒板にほんの少しですけれど、「おはよう、元気？」みたいなことをひと言書く。掃除を通して彼は自分で実践をしていって素晴らしい学級づくりをしたんですけれども、言葉だけでなく、後を追うということを時にはしていかなければいけなかったなあということを思っています。

白鳥市長
　私なんかが聞いていると、ある意味、先生方一人ひとりの性善説に基づいた心の軌道といいますか、そういったところを読み合わせであるとか修養で行っていると思うんですけれど、一方、自分だったらそういう兆候のある人って事前に分かるんじゃないか、噂だったり、そういうのを引き出したり、調べて個人個人を呼んで指導することの方が大事じゃないかという気がするんだけど、そういうような対応はあるんですか。

松田教育委員長
　２番目のところに、自分の心を開けるような人間関係が築けていないという要素が出てくるんですけれど、そこのところに関わってくるんじゃないかと思います。

白鳥市長
　それでは、そちらの方に移っていきます。

松田教育委員長
　ふたつ目に、自分の心を開けるような人間関係が築けていない先生にそういう傾向

があるということなんですけど、まず、ひとつは、教師にとって授業は暮らしであり、生活そのものなんですね。だから、授業が充実して来れば、教師の暮らし、生活の充実につながっていくので、ここの充実がないと心を開く人間関係を築けないと私はかねてから思っています。満足な授業ができなければどうしても心を閉ざしていくので、校長、教頭は、率先して授業を参観し、授業充実の支援を行う、これを欠かしてはいけないと思います。

ふたつ目は今の話に関係しますが、児童・生徒理解の研究を日頃から先生方は行っているわけです。このことと同様に、校長、教頭、あるいは教務主任等、先生方をリードする先生方は、教職員理解の研究を行って、自分の心を開けるような人間関係が築けていない教職員も実は「築きたいと願っている。」という立場に立って声掛けに努めると共に、膝を交えて懇談するゆとりを怠らないということではないかと思います。

三つ目は、最近忙しいということを口実にして、教職員の研修旅行等親睦の機会が薄れてきてしまっているんですけれど、それを大事にして職員同士が関わり合う機会を醸成することが求められるんじゃないかと思います。

三点を考えましたが、ご意見をいただければと思います。

白鳥市長

はい、今の心を開くというところですが、どうでしょうか。職員でも、校長先生方でも結構ですので、ご意見をいただければと思います。

市川校長会副会長

教職員理解ということですが、先日、不祥事があって本校でも職員で話し合ったんですけれど、わいせつ事案だったので、話しづらいかなと思って、男性グループと女性グループに分けて話し合ったんですけれども、女性グループの中から特に強く出てきたのが、つながり、それから、語り合いたいんだと、もっともっとつながり語り合いたいんだと、どうもその辺のところが不足しているんじゃないかと、女性というのはその辺がうまくて、ちょっとした時間を見つけては、意外に男性より飲みに行ったり、近くの蕎麦屋に食べに行ったりと語らっているんですけれど、そういう時間を校長自身も作れないでいるというところもあるかなと思いました。それと、どうしても学校の中にいると、社会性が狭くなってきて、判断基準がずれてきてもそれに気が付かない自分自身がいる。そういう時に今の松田先生の提言にあったように、授業を参観したり、声掛けをしたり支援したりしながら、ずれてきた判断基準を直していってやらなければいけない。これは、校長、教頭、教務主任だけじゃなくて、お互い教員同士が、語らったり、研修や修養を行うことによって、方向がずれてきたものを直していけるんじゃないか、その辺のところを、確かに忙しくはなってきています。超過勤務時間の縮減を言われたりする中で、少しずつそういう部分が欠落しているということがあるのかなと私も感じています。

白鳥市長

今、貴重な意見として、語り合いとかつながりの不足、気づかない部分があるんじゃないかという話がありました。特に、私が気になったのは社会性だとか、社会の規範だとか、いつの間にかずれているんだけれど、気が付かないまま行ってしまっているというくだりなんですけれど、どうでしょう。ほかに、今のことに対してでも結構

ですし、ほかのご意見でもいいのでいただきたいと思います。

（意見なし）

白鳥市長
　では、次の項目に移りたいと思います。

松田教育委員長
　次は、三番目ですけれど、そもそも心理や行動に病的傾向がうかがえるということなんですけれど、これはもともとそうした傾向がうかがわれるということであればどうすればいいかということなんですけれど、採用も昔に比べればかなり面接も充実してやっていますし、集団面接をしたり個別面接をしたり、精選して精選して採用していただいているんですけれど、どうすればいいかというのはなかなか、どうすればいいんですかね。

白鳥市長
　かつて、私が市役所に来た辺りですけれど、金銭の横領があったり、続いたことがあったんですね。その時に時の小坂市長は弁護士にお願いをして職員を集めて勉強会をしたんですよ。例えば、逮捕されたらどうなるのか、どういうようなことをすれば逮捕されるのかというようなことを何回かに分けて全員を対象にやってもらったんです。そのことについては社会の信用を落とすだとか、市役所の信用を失わせるとかいうことだけじゃなくて、本人も社会から消えざるを得ないというところまで徹底的にやって、犯罪を犯した後の怖さっていうものをしっかり植えつけてもらったことがあったんですね。こういう心理、行動、傾向がうかがわれる人、ゼロではないですね。犯罪を犯したということでどういうようなことになるのかを、校長、教頭、教務主任なりに、全員は無理だと思うので、話をしてもらう。それを学校で披露してもらうのはどうかなとも考えてみたんですけれど、あまりにも短絡過ぎるような行動ですからね。

松田教育委員長
　それは、県教委でもどういうふうになっていくかということについては、かなり細かに示して、校長会等で指導していると思うんですが、薄田先生、何か出してくれる。

薄田校長会長
　今、市長さんがおっしゃったようなことは、学校には県教委からそれぞれの事案の例が出てきて、その背景であるとか、そのことによってどんな影響が出てくるか具体的な事案が、いろんな例を上げて示されています。それについて、各学校では研修の中で扱っています。今回の件について、特に校長会で考えたのは、本人はもちろんなんだけれども、学校にいる周りの先生たちが学校名さえ言えない、そんな厳しい状況にある。そういう生の声をいただいたりしながら、そういう話を先生方にもしていくなかで、規範意識を高めていくとか、どこかで心のブレーキをかけさせるというようなことは継続してやってはきています。

市川校長会副会長

職員と話をした時に、いかにこの行為が子どもたちや学校や周りの人に迷惑をかけているのか分かっていない教員がいるのかなということで、アフター人生ビデオではないですけれど、そういうものを作って見させるくらいのことをしなければだめなんじゃないかという意見もありました。それから、今回のような不祥事があると、個人情報の保護とか、守秘義務はあるんだけれど、そのことについて伝わってこない、盗撮があったと言って、新聞で騒がれるけれども、あと何もなかったような傾向がありはしないかと言っている職員もいました。確かに、守秘義務や個人情報保護もあるので、難しいと思うんですけれど、先程市長さんも言われたように、今回の事例じゃなくて､かつてそうしたことがあった時に周りがどれだけ苦しんで､どれだけ苦労して、その家族がどうなってしまったのか、そういう話を弁護士とか警察とか、そういう方に語ってもらうことが大事じゃないかという職員からの意見もありました。私もそういう点も大事にしていかなければいけないのかと思いました。

白鳥市長

まあ、本人というより周りが大変ですよね。家族とか、仲間とか。悲惨な末路をたどっていくと思うんですね。家族全員が。家族どころか親戚までそういうふうになって行ってしまう。そういうことをもっと広く知らせるということも大事なんじゃないかと思いますね。時間も限られておりますので、最後の項目をお願いします。

松田委員長

４番目に学生から社会人への切り替えがうまくできていないということが挙げられています。学校教育法第３７条第４項に「校長は公務をつかさどり、所属職員を監督する」とあります。そして教頭は補佐する立場にあります。監督というのを深く吟味しなくてはいけないと思うんですが、「監督」の「監」には「かがみ、手本」の意味があり、「督」には「よく見る」の意味があります。一般的に言うところの監督の立場でなく、もっと深く監督ということについて考えてもらいたいと思うんですが、具体的に言いますと、学校生活の中心である授業、教師は授業によって生活しているわけですので、授業の指導案が十分できない教師もいるわけです。そういう教師に具体的な対応をしてきただろうか、そして、満足のできる授業ができるように育んできただろうかという問いがあります。

ふたつめには、教師の基礎基本は、子どもたちの日記や生活記録を丹念に読み、言葉を添える、また、お便りを発行して学級の様子を家庭に伝える、この基礎基本がなおざりになっている教師に指導を怠ることはなかっただろうかということです。

三つ目は、服装の乱れ、教師としての所作が不十分な教師に指導を尽くすことを怠ってきたことはなかっただろうか、こういうことを問うのが所属職員を監督する中身だと思います。そのことによって学生から社会人への切り替えができていくのではないかと思いますが、どうでしょうか。

白鳥市長

学生から社会人への切り替えの部分、また、服装の乱れ等、言葉づかいもあるでしょうけど、そうしたことについて背景にあるのではないかとそんな話でありますが、このことについて皆さんからご意見をいただきたいと思います。私も授業をあまり見たことがないんですけど、学校での先生方の服装っていうのは一般的にはどういう服装なんですか。ネクタイをして背広っていう人はいないですよね。

市川校長会副会長
　授業やっている先生にはほとんどいないですね。

白鳥市長
　運動着みたいな格好ですか。

市川校長会副会長
　そうですね。普段着ですね。

白鳥市長
　パジャマみたいな人はいないよね。昔はよくパジャマみたいとか言ったけれど。

北原教育長
　アのところで指導案が十分でないという部分があるんですが、いい指導案を書いていい授業ができるという経験を知らなければいけないかなあと思うんですが、実は、初任の頃に授業を宮下安人先生、前の教育長さんですけれど、に見ていただいたことがあって、その時ふたつ教わったことがあったんです。ひとつは、授業を指導案を書いてやったんですけれど、指導案どおりに全くいかなかったんです。当たり前だと思うんですけれど、完全に落ち込んでいた時に宮下先生が、あるひとりの子どもの学びの深まりをずっととらえて教えてくださったんです。こんないい加減な授業をやっていてもこんなに子どもは頑張っている。じゃあ俺も少しでも手助けできるようになりたいなと思ったのが一点なんですね。その次に研究授業があったので、指導案を作るんですけれど、私は木曽の上松にいたんですが、宮下先生は松本の官舎にいたんです。それでお時間を割いていただいて、夜とんでいって、指導案を見ていただくと、一室しかないので、真ん中にテーブルがあって、こう机があって、宮下先生は、こっちの机の方にいて線をぴっぴっと引いてくれるんですね。ああ、ここがダメなのかと修正すると、また線を引いてくださる。何回かやり取りをして、それで授業をして、ああ、先生が言われたことはこういうことかと少し分かったような気がしました。直接指導もしていただいたし、ペーパーでもやっていただいたんですけれど、そうすることによって子どもたちも変わっていくよということを教えていただいたんですね。そういう意味では、私も校長をやっている時に全教科の指導案を見て返すんですけれども、先生方は子どもたちが自ら学ぶということはどういうことかということをそういうことをしながら、関わっていくことが大事だなあということがひとつです。
　それから、ウのところに服装の乱れってあるんですけれど、もう２０年前なんですけれど、私が指導主事をやっていて、夏、初任研の会があったんですけれど、その時最初の会の司会をやったんですが、トイレに行って帰ってきて、先生方に「さすが先生方、トイレのスリッパがきちんと並んでいましたね。」って言ったら、その初任研の間ずっとトイレのスリッパが乱れることがないんです。実は、私が入った時にぐちゃぐちゃになっていたのを直してきたんです。ただその一言で「ああ、そういうものなんだ。」だから、知らないものを知らせるとか、熱いうちに打つとか、そういうことってものすごく大事なことだと思うんですよね。

松田教育委員長

私も教員生活４０年近くやりましたので、何百回って授業をやったんですが、心に残っている授業っていうのは指１０本に入らないですね。そのぐらい授業というのはなかなか難しいんですけど、でも子どもの望みや願いと自分の想いがぴたっと合った、そういう授業があるとそれが心の支えになるんですね。だから特に若い先生方には、校長先生、教頭先生に指導してもらって心に残る、子どもと一緒にやったなあという教師としての醍醐味ですね、そういうものを感得させる、そのことが学生から社会人へ切り替わっていく一番のものだと私は思っているんです。だからやはり授業が大事だなあということを思います。

白鳥市長
ほかにどうでしょうか。

白鳥市長
いろいろな意見を出していただきましたが、決定打としてこうすればいいというものがなかなかないわけでありますが、ひとつには、弁護士なり、警察なり、まあ警察は難しいんでしょうけど、事案のマクロをきちんと話をしてもらうのがひとつかなあということがありましたので、今後さらに検討するなかで、そうしたことも実施できるかと思います。あとは、今回、わいせつという事案であったんですけれど、ほかにもよく出てくるのは、飲酒運転とか、窃盗であるとか、これから暮れにかけて飲酒の機会も増えてきます。市役所の中でも副市長名で依命通知ということで年末についてはくれぐれも飲酒運転についてはしてはならぬというような通知を出していますので、教育委員会の中でも先生方に過度の飲酒の翌日の朝の運転も当然出ますので、そうしたことも徹底するような通知をしてもらうことも大事だと思います。

北原教育長
ちょうどここで出したんですけれども、飲酒のこと、それから会計のこと等々ですけれども、また、校長会の方で今までのことを含めて伝え、学級の方でやっていただければと思います。

宮脇教育委員長職務代理者
先ほど市長の方から性善説を取ってみんなでやるよりも、もうちょっと絞ってやった方がいいという話があったんですけれども、これが考えてみると非常に難しいことで、起きちゃえばその人ってわかるんですが、これから起こしそうな人っていうことになると、予測していくというのはなかなか難しいんじゃないかという部分があって、ただ、県の方である程度こういう傾向のある人たちは注意しなさいよということが出てきたので、そういう人たちを重めに見ながら、そうは言っても皆でやる部分がないと網羅できないのかなと、誰がやるか分かっていればそれは簡単なことなんですよ。それが分からないので、いろんなことをやっているという状況があるので、特に校長先生は大変だと思うんですけれど、教育に携わる人たちに目配りをしていくということがひとつ大事なことなのかなという気がしています。

白鳥市長
実際には分からないと言いながら兆候っていうのはどこかに出るはずなんだよね。で、その兆候を早くつかめば、指導をそうした言葉を使いながらやっていくことがで

きるので、そうでなくても話をすることは大事なので、そうした見方は大事だと思いますけどね。

松田教育委員長
　県からこの４つの視点が出ているもんですから、これもここまで絞り込んでいくには、かなり専門家に聞いたり今までの事例を良く検証しながら出してきてくれていると思うんです。だからこの視点で、研究や修養をどうやったらいいかということを各学校で重く受け止めてもらって励んでいただきたいと思います。

白鳥市長
　今の兆候の話ですけれど、例えば、朝、お酒の臭いがぷーんとした先生がいたとしたら、呼んで注意するとかね、そういうことはしていかなきゃならん。わいせつ事案でそういう兆候があるかどうかというのは、例えば噂があるとか、前任校で何か話が聞こえてきたとかいうことをきっかけにとらえるべきなので、いろんなとらえ方があると思うので、できる限りそうしたものを拾い上げて、個別指導みたいなことはやって行くべきだと思う。

宮脇教育委員長職務代理者
　前回も校長先生方とお話をしたんですけれど、やはり、校長先生は管理職なので、そういう目でも、どこかで見ていかなければいけないよということをお話させていただいたんですが、そういう目を持ちながら見ていくことも大事かなと思います。

白鳥市長
　それでは最初の研究と修養の取り組みについては、以上とさせていただきます。続きまして、学校における木質化の取り組みをお願いします。

（２）その他
　　・学校における木質化の取り組みについて

北野学校教育課長
　学校における木質化の取り組みということで状況を説明させていただきます。
　伊那市におきましては、平成２６年度から県の「元気づくり支援金事業」を活用しまして、「上伊那発！ぬくもり伝える木の良さ発信事業」ということで取り組んできております。上伊那林業振興協議会が実施主体となっております。
　２番目の事業の目的に関しましては、上伊那産材の積極的な利用を通じて里山を整備し、元気な森林づくりを進めたいというものでございます。
　３番目の事業内容､具体的にどんな事業を行っているかということでございますが、モデル普及事業という位置づけのなかで、学習机天板替え事業、また、腰壁板設置事業ということで進めてきております。平成２６年度の様子をご覧いただきますと、天板替え事業につきましては、西箕輪小、高遠小、高遠北小、長谷小、割り合い小規模な学校に実施してきております。この４校につきましては、今年度まで継続的に４年生の天板を地元産材に替えるということで実施してきております。また、２６年度の腰壁板について新山小学校で実施しております。平成２７年度の腰壁板につきましては、新山小、更に西春近南小学校、２８年度におきましては、伊那西小学校に腰壁板

の設置をしてきております。平２９年度以降についても県の「元気づくり支援金事業」は今年度で終了するわけですが、「木育推進事業」を活用して引き続き進めていきたいと担当部署であります耕地林務課と連携を取りながら進めていきたいと考えているところです。

裏面をご覧いただきますと、こんなようなものをということで、お示しをしてございます。一番上の学習机の天板の部分を既製品から張り替えるというものになります。これも業者さんがやるということではありませんで、この事業の趣旨からいってＰＴＡ等の住民が関わって、子どもも交えて作業してもらうというところに特徴があります。二番目が腰壁板の詳細でございまして、伊那西小学校で今年度設置した様子をお示ししてございます。

この事業に関しまして、子どもたちがどう感じているかということでございますが、２７年度のアンケートをかいつまんで紹介させていただきますと、まず学習机の天板の関係でございます。「天板を張り替えてどう思いましたか」というような質問に対しまして、３分の２の子どもたちが「大切にしたい」という感想を述べております。自分が作業をやったというような思い入れもあると思うんですが、また、心配しておりました天板の重さという点につきましては、「重い」「とても重い」という回答が３分の１に留まっている。高学年に設置しておりますので、そのあたりはそう心配する必要はなかったかということであります。ただ、天板に傷がつくという状況がありました。どのあたりで傷がついてしまったかとのアンケートには、「１か月以内で８割傷がついてしまった」というような状況がございました。この原因としては、コンパスを使ったときとか、鞄を机に置いたときとか、あと、掃除の時に椅子を机の上に上げるわけですが、そういう時に傷がついてしまうということがございました。ただ、これに関しましては、上伊那森林組合と相談しながら改善を模索したところなんですが、特効薬がありませんで、毎年の事業の実施につきましては木は傷つきやすいものであるということを子どもに話しながら大切に使っていきましょうというような形態をとっているところでございます。

また、腰壁板の関係なんですが、これについては、作業を子ども達交えてやったということで、「とても面白かった」「面白かった」が９５％となっております。また、全般的な感想のところでは「とても良い」「良い」が９２％というような状況でありました。以上２６年度から取り組んでおります木質化の取り組みということでご紹介させていただきました。

白鳥市長

この事業につきましては、上伊那８市町村の中でも伊那市、飯島町、箕輪とかいろいろな自治体で取り組みをしていただいておりますので、そうしたことも含めて今後も継続していきたいという考えであります。西春近北小はありましたっけ。

市川校長会副会長

いや、ないですけれども、西春近南小には腰壁板が設置されていますよね。行ってみていいなあと思いました。温もりがあって明るくなるしね。ぜひうちもやってほしいなあと思って非常にいいと思いました。

白鳥市長

随時進めていきますので、予算については、県の木育推進事業がダメになっても市

の一般会計から出してもいいので、毎年一定規模の予算を確保して続けていってもらいたいんだよ。天板もだし腰板も、なんでこうなのかを子どもたちに説明してきちんと理解してもらえれば、効果としては非常にあるし、乾燥に対しても湿度の調整を木がするので、学校の中で風邪をひく子が減るとかね、そういう効果があるので、効果があればこうしたことをやっていくことがいい投資になっていくと思うので、来年度はそこら辺も予算確保をしていってください。

松田教育委員長
　伊那市は「５０年の森林（もり）ビジョン」というのを大事にしていると思うんですが、このビジョンと学校における木質化の取り組みとは何か関係性を持たせているんですか。

白鳥市長
　当然地元の木を使いましょうということを教育現場に木を持ち込みたい。保育園でもプラスチックのおもちゃを木に替えましょうということも言っていますし、木のある生活というのを身近に知って感じてもらいたい。特にエネルギーについてもペレットストーブ、ボイラーを入れながらやっていますので、木というのは身近にあって自分たちの生活に役立っているということを知ってもらう。５０年の森林ビジョンでもこれを謳っておりますので。

松田教育委員長
　実質的に、今学校にいる子どもたちが５０年の森林ビジョンを将来的には背負っていくので、そこへいっていきなり背負わせるのでなくて、今から背負ってもらうような、そういう視点で、このことを学校に下ろしてもらうと非常にいいかなあと思うので、ただ木を使うといいというのではなく、もっと大きな、地域全体を見てやっていることなんだ、この視点が是非欲しいと思います。

白鳥市長
　５０年の森林ビジョンのひとつのエッセンスとして、学校で展開する場合の説明の仕方を作るように言っておいて。そっちで一緒に作ってよ。林務と一緒に。それを子どもたちに説明しながら腰板を組み立てていく内容に変えると。市内全部の学校に展開したいという思いがありまして、小規模校から始まっているんですけど、段々にこれを啓蒙していきたいと思います。本来は、天板についても４年生からやっていますよね。６年生の卒業の時に持っていっていいと考えていますので、４年生の時に天板を替えて大事に使ってもらって、６年生の時に持って帰りたい子は持って帰っていいぞという回転をさせていきたいと考えています。強度の方は私も担当の方に強度を上げるようにと言ってあるんですけど、カチカチになるところまでは行きそうにないので、大事に使ってもらうことが大事かと思います。何かこのことについてほかにありましたらお願いいたします。

（意見なし）

　　・ＩＣＴ教育に係る文科省委託事業及び新産業技術推進事業の取り組み等について

白鳥市長
　では、続きまして、ＩＣＴ教育に係る文科省委託事業及び新産業技術推進事業の取り組み等について、お願いします。

北野学校教育課長
　それでは、資料ナンバー３をご覧いただきたいと思います。伊那市のＩＣＴ教育に係る取り組みということで、大きくは昨年度から実施しております文部科学省の委託事業、それと今年の５月発足をしました伊那市の新産業技術推進審議会、この取り組み、２本あげられるかと思います。それぞれについて今の状況をお話させていただきます。まず、文科省の委託事業の関係ですね、これをＩＣＴ教育コーディネーターの井口先生の方からお話をさせていただきます。

井口教育コーディネーター
　「少子化・人口減少に対応した活力ある学校教育推進事業」の今年度の取り組みの様子を報告したいと思います。
　第２回の推進会議の資料が４ページから載っております。本年度小学校４校に加わっていただいて、子どもたちにいろいろな実践をしていただいているもんですから、資料も膨大になってしまいまして、この時間で一つひとつ扱っていきたいところではありますが、かいつまんでお話しさせていただきます。
　資料の４ページをご覧いただきたいと思います。始めに長谷中学校と東部中学校の取り組みでございます。両校間の交流に関わりまして、今年度は食育を中心として畑の確保に困っている東部中学校が長谷中学校の畑をお借りして、長谷中学校でこれまで行ってきている農業体験活動や地域の方々との交流を共に行いながら、栽培や調理を通して食に関わる学びを深める、交流を通してコミュニケーション力を高めるということで活動をしております。先日７日ですけれども野沢菜漬けを共に行うという活動を行いました。新聞にも掲載されていたかと思います。ただこれまでと違う教室を使ってスカイプでやったもんですから、ちょっとそのスカイプの加減がうまくいかずに、長谷中からの映像が東部中に届かなかったというようなトラブルがありました。スカイプの環境が不安定ということがほかの活動でもありまして、課題になっているところであります。
　それから交流とは別に、少人数を活かしたというところでは、長谷中学校では家庭学習のあり方を研究していこうということでこれからやるところであります。具体的には英語科におきまして、iPad を持ち帰って、東部中で作ったデジタル教材を使って、個に応じた学習に取り組もうということで、この１２月中に第１回目を行うということで、打合せが済んで、あとは長谷中が来週実施するというところまで来ております。
　この中学校の取り組みで一番の課題になっているところは、時間割が違う、時間帯がずれる、教科の学習の進度が違うということで、同期型の合同授業ですね、昨年理科で行ったような、ああいうことの難しさが両校から出されており、私も感じているところであります。ですので、無理をして同期型の合同授業ではなくて、できるところでやる、非同期になってもいいじゃないかというところで考えてもらおうと思います。実際に長谷中の子どもさんたちからしてみると、東部中の子どもさんたちに、種芋の植え方だとか、畝の作り方であるとか、私からすると、東部中の親は大丈夫かと、私は東部中ですけれど、思うくらい何もできないので、長谷中の子どもたちが自信を

持って教えるんですね。そんないいところが見受けられてとてもよかったと思います。野沢菜をこれからやるんですが、おやきにしたり、直接的な調理のこともやりますし、おやきのいわれと言いますか歴史と言いますか、そんなことをスカイプを通してできればなあと両校間で考えているところです。

８ページからは、新山小学校と手良小学校間での取り組みが紹介されています。５年生を中心に遠隔での同期型の合同学習、それに加えて、今年は、去年も一部やったんですが、新山小の児童が手良小に出かけて同じ教室で一緒に授業を受けるということを何回かやりました。先だっては、手良小の子どもが新山小に来て体育や道徳の授業を行っていることも報告を受けております。同期型の合同学習では、小学校の方が融通が利く部分があって、両方の先生方が話し合ってうまく授業を合わせて、算数の合同授業を行いました。スクールタクトを使って、遠隔であったわけですが、新山小の子どもも手良小のグループの一員として話し合いに加わったりもしました。先生方がまだ十分に機器を使いこなせていなかったり、スクールタクトの機能の活かし方についても研究が十分でなかったりしたこともありますけれども、新山小の子どもさんの感想が載っておりますが、これでわかりますようにだんだんにその有効性がわかってきているのかなあということです。今後 iPad の使い方から始まってスクールタクト、スカイプなど、技術的な課題について研究をしていかなければいけないかなあと思っています。それから、５年生だけでなく他学年での交流もあって、この輪が広がっていっているんだなあと思います。

また、この遠隔教育とは別ですが、土曜日の新聞で、新山小の５年生が、カンボジアの日本語を学ぶ機関との交流のことが載っておりました。海外との交流ができないかということをずっと模索してきたんですが、いろんな方に声をかけていただいて、そのことが実現できました。これも１回で終わらずに、該当の５年生ももっとやりたいと言っておりましたので、いつやるということは決まっておりませんが、また、やりたいということでございます。

１８ページからは、長谷小学校と高遠北小学校での取り組みが載っております。６月に６年生が図工の鑑賞で交流を行いました。高遠北小の児童の作品に対して、長谷小の児童が感想を述べるという授業だったんですが、２１ページに「Ｉさんの様子」「Ｉさんの日記より」というところがあります。普段からずっと一緒にいる子どもたちでない子どもから、思いもよらない自分の作ったものに対する感想が寄せられて、物の見方を深めたり、その子の自信につながったりということが出てきて、とてもいい授業でありました。

それから、こうした遠隔でのもの、朝顔等が載っております。それぞれ、他学年でも交流が行われております。それから、遠隔での交流のほかにそれぞれの学年で少人数を活かす取り組みもやっておりまして、長谷小の例は、私とても好きな例なので、ここに載ってはいないんですが、長谷小３年生は、iPad を使って野菜の観察記録を作るという授業を見せていただきました。iPad を使って２人１組でやるんですけど、カメラ機能を使ってそこに簡単なコメントを打ったりするんですが、継続して入れていってその成長ぶりを見るんですが、あるペアはキュウリに物差しを当ててパシャッとやったりしていたんですが、あるペアは、なすの成長をみんなに見せようということで、ひとりの子が ipad を、ひとりの子がなすを持ったんですが、この子がなすをこうやって持ったもんですから、こっちの子が「だめじゃん。」と言ったんですね。自分たちの育てているなすをそんなふうに持っちゃいけないっていうね、これとっても良かったんですが、なんでそんなことが起きたかと言うと、こじつけてはいけないんで

すが、２人１組で１台の iPad を使っての活動から生まれたことかなあとこじつけと言えばこじつけかもしれませんけれども、そんなふうに思っています。そんなところが出てきてうれしいなあと思います。

高遠北小では、５年生が臨海学習に iPad を持っていきました。臨海学習の様子をカメラ機能で撮ってきて、その中から精選して、自分の一番楽しかったことを全校の前でプレゼンするための資料に使うというような活動もしておりました。どうやったら自分の思いが伝わるか、どの写真を選ぶかだけでなく、自分の一番良かった思いをどう伝えようかというところに想いを寄せていました。そういった面がとてもよかったなあと思っています。

それから、今、やっていることですけれども「掲示板機能」を使って非同期の交流を進めていこうとしています。長谷小学校の図工の作品を掲示板にあげて、高遠北小でそれを見て感想を寄せるというようなことをする準備ができていて、まだ、できたという報告を受けていないんですけれど、その有効性について検証して、できればほかの学校、中学の方ではそんな方向で進めたいなあと考えています。

小学校は、学校紹介、行事の紹介等いろいろな機会をもって交流を進めてきています。他学年にこの輪が広がればと思っています。また、遠隔での交流に限らず、小規模だからできることをもっともっと進めて、これまで以上に子どもたちが活躍できる場を設けてもらうとともに、深い学びにつながる活動を仕組んでいければなあと、そんなところを支援していければなあと考えています。

白鳥市長

ありがとうございました。引き続きＩｏＴをお願いします。

北野学校教育課長

それでは、２４ページをご覧いただきます。新産業技術推進事業についてということでございます。時間も限られておりますので、趣旨、目的はご覧いただきまして、推進テーマとして３つ、スマート農業、ドローン活用と２５ページの（３）ＩＣＴ教育ということで、教育委員会ではこちらに取り組んでおります。この下のスケジュールで申しますと、協議会全体で来年度、素案を作成、答申するという流れのなかで、ＩＣＴ教育部会としましては、現在、検証事業、現状分析等行っているところでございます。

２６、２７ページは策定方針ということで、またご覧いただければと思います。ＩＣＴ教育部会の構成員というところでは、２８ページになります。この中で、信州大学教育学部の東原先生に部会長をお願いしまして、２９ページになりますが、これが第１回目の教育部会の会議録ということになっております。こちらも後ほどお目通しいただきまして、この初回の会議で出ました特徴的なところとしましては、
３１ページの真ん中下、（４）まとめ、検討すべきこととして、東原先生から、これは委員さんの意見を踏まえて出てきたものなんですが、「教育の本質的なところを考えていく中でＩＣＴとの兼ね合いを考えていく。伊那の自然環境・文化歴史・教育の伝統など大切にしてきたものをこのＩＣＴでさらに拡大強化していくという視点を変えてはいけない。」というところが確認されています。

ちなみにこの会議、今月２０日にも第２回目の会議を予定しております。具体的な事業の分析等につきましては、信州大学の方に業務委託をしております。伊那市におけますＩＣＴ教育、課題分析を今年度はお願いしているところでございます。その中

でひとつ、Google との関係が西箕輪中学校の方でこの秋から取り組んでいるわけですが、２年生有賀先生を中心にして、研究を重ねてきております。具体的には、Google さんから chromebook、こちらパソコン４０台を無償で貸与いただきまして、具体的には Google Apps for Education、Google も教育分野に非常に力を入れておりまして、Google が提供する教育支援ツール、この検証を行うということがひとつの大きな目的です。これを踏まえて想定される検証としましては、これまではパソコンの OS としては Windows だったところですが、Google OS ですね、こちらを活用してクラウドベースのパソコンの有用性を検証できること、また、たくさんのツールが Google からは出ているわけですが、Google Apps の活用方法、また、効果も検証できるということで進めているところでございます。そんな中先日、１１月になりますが、西箕輪中の方で授業公開が行われました。資料ナンバー４をご覧いただき、その様子を参加した井口先生の方からご紹介させていただきます。

井口教育コーディネーター

１１月２９日、西箕輪中学校で有賀先生が技術科の授業でひとつの検証の実証授業をしていただきました。授業の目的のところに入りますけれども、チームで分担しての共同作業というのがひとつ、それから他者に伝えるための発表というのがひとつ、これを狙いとしてこの chromebook を使って行ったわけです。先人の知恵に学ぶということで道具、げんのうであるとか、ペンチであるとかいうものにどんな知恵が潜んでいるんだろうということを、４人で考え合ってみんなに発表するというものでした。具体的なところで、製作段階に４つ点があるんですが、これを４人が分担して仕事をして、分担してやったものをみんなで考え合うんですが、この chromebook を使うと、写真を入れる、それから機能をまとめたものを入れるというようなことが同時にできる、そうした良さがあります。うまく言えないんですが、みんなが同じ画面を、４人が４人、同じ画面を見ながら、ほかの３人が何をやっているか、この画面のなかで見られる、そういう機能です。ですので、４人で「発表どうする。」っていう時にも、いろいろが見えてきたので、話し合いがスムーズにできて、発表の準備もしながら、１分程度の発表なんですが、「１５分で作りなさい。」と言われて一生懸命、子ども達やっておりました。

西箕輪中学校の尾形校長先生がこの授業を見て、先生方用に作ったプリントですけれども、いただきましたので、そこにつけておきました。学び合いのある授業、誰も置き去りにしない授業とありますけれど、誰かに任せてしまうということができない、絶対自分の分担をしなきゃいけないということがありますので、傍観者的になっている子はひとりもいません。ですので、主体的で表情もよい表情をしています。もっとこうやったら学びとして深まるんじゃないかとかいう部分はあるかもしれませんけれども、みんなで主体的に取り組んでいくというところでは、この chromebook は有効性があると思います。今後、何人かの先生でどんな使い方ができるかを考えていきたいとおっしゃっておりました。とりあえず今度は道徳の授業で使えそうだと、いろんな意見をひとつの画面の中に入れて相談し合う、そんなことができそうだねと今後検証していきたいとおっしゃっておりました。

白鳥市長

伊那市のＩＣＴを使った様々な取り組みでは経済産業省の方からも採択をされて、今年で３年目になります。そうした取り組みの状況を見ながら東原先生経由、明治大

学の先生も入って、Google 社も紹介してもらい、Google 社が興味を示し、伊那市に来たということなんですが、Google は今、アジア、世界で教育に力を入れていくということで、かなり取り組みをパワーアップさせている。そうした中で伊那の取り組み、授業を Google でも一緒にやらせてほしいということで、アジアの最高責任者の方が伊那に来て話をし、西箕輪でその展開が始まっているわけです。そうした世界的な企業と伊那市の授業が結びついているというのが、これからの可能性を感じるわけですけれども、伊那市としては、ＩｏＴ、ＩＣＴというものをひとつの重要なものにしていこうと、もうひとつはＩｏＴはこれからの主流になりますので、伊那市、伊那谷、この地域がＩｏＴの中で、世界から注目されるような、そうした伊那バレー、ＩｏＴバレーのような、そんなところまで押し上げていきたいなということで、事例としては、スマート農業とかドローンとか、ＩＣＴ教育、そうしたことが始まり出しています。そうしたことも知っていていただきながら、教育に対してもということを知っていていただきたいと思います。

田畑教育委員
　ここまでＩＣＴがシステム的に入れて来られているのであれば、テレビのつけ方、チャンネルの合わせ方が分からない、そこに対して教育することも大事なんですが、むしろテレビ自体を使い込む。以前教育委員会の中でも話をしたんですが、５０分の授業の中でそれぞれの先生が実践して授業を演出していくことを、インターネットの中で自分で電子黒板を使いながら分かりやすい授業を構築して、授業の前に生徒に配信して見てもらってから反転授業の形で、授業の５０分を使ってより深めるというような、授業プログラムにインターネットをダイレクトに取り込むような教育の仕組みを入れ込んでいかないと、単純に遠隔地をつないでお互いに情報をやり取りするのも大事だと思うんですが、本当の意味でシステムを使い込んでいくということにならないと思いますので、再再生可能な知識のベース、授業ベースみたいなものをひとつ、生の授業とは別に構築していくようなイメージも、これからは絶対必要になっていくというふうに思っています。モンゴルで最先端の大学の授業が受講できるというようなことも、世界的には、おそらく Google 社ではできると思うので、もう一歩授業の仕組みとして一歩先駆けられたら、それこそ世界に先駆けるものになっていくということを頭に置いておく必要があるのではないかと思います。

白鳥市長
　これに参加している信大の東原先生、教育関係ではトップランナーとして走っている沖電気、コンサルタントも入ったりするので、そうした世界規模の話も当然出てくると思うので、そうしたところも段々に広げていきたいと思います。ほかにどうでしょうか。

松田教育委員長
　３１ページのまとめのところで、東原先生が最初のところでおっしゃっている「教育の本質的なところを考えていく中でＩＣＴとの兼ね合いを考えていく。」となっておりますけれど、まさに、長谷中と東部中がこのことをやっていると思うんですけど、その意味で、「暮らしのなかの食」っていうものが、ＩＣＴの活用によって更に深まるというんですかね、そういう働きをしているということを考えた時に、教育の本質のところに軸足を置いて、ＩＣＴをやっていくということを怠ってはならないなと改

めて思います。

白鳥市長
　これだけが事業の動きではないので、別なところにあってその手段として使っていくということで、関係するかもしれませんが、電子黒板に代わるものということで、エプソンの機器６台を各中学校に配置するということで、準備を進めております。良ければ横展開ということで、こちらも実際に使ってみたり、教育委員会でも担当が行って来たりしたんですけど、非常に使い勝手が良くて、ソフトもラインナップが非常に豊富なので、いろいろな使い方ができるかなと思いますので、各中学校に行ったらそれを使いつつ、またご意見をいただけたらと思います。
　伊那市は教育に必要なお金をかけていきますとしておりますので、そうした点におきましても、卑近な例では学校のペレットストーブ、たくさん燃料を使ってはいけないということではなく、寒いときにはどんどん使っていいということでやっていってもらいたいと思います。我慢する必要はないということであります。それがペレットの普及にもつながっていきますので、いろいろな機器の導入であるとか、教育環境の改善だとか、今やっている放課後学習の充実とか、今の時代必要なものについては伊那市は惜しみなくいろんなことを実践していくという姿勢でおりますので、また、忌憚のないご意見をいただければと思います。それでは、私の担当については、以上とさせていただきます。

大住教育次長
　はい、ありがとうございました。せっかくの機会ですので、皆さんの方から何かあればお願いします。

（意見なし）

大住教育次長
　次回は、３月、第４回最終になります。日程等、お知らせさせていただきますので、よろしくお願いいたします。それではこれを持ちまして、第３回の伊那市総合教育会議を終了とさせていただきます。ありがとうございました。